

⑨ 中山の道標 みちしるべの石



朝山は延喜式（927年）に定められた当時の都、京都と石見国府（浜田）を結ぶ路の駅家多岐と波禰の中間に位置しています。

二つの駅家を結ぶ路は時代によって変わりましたが室町時代（1400年頃）以後は最も海岸よりのこの路が主として用いられました。出雲へは、波根から田長を経てここに至り、更に東へ進み島津屋を通り田儀へ向かいました。

右には

右 仙山みち

中 いずも道

左 やまみち

と文字が刻んであり、ここ中山峠にあった茶店に憩う旅人の伴侶となりましたが、設置された時代ははっきり判っていません。

石碑の位置

